

授業科目 人間と生活の科学

【担当教員名】 澤井セイ子	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

<概要>
日常生活に関する研究の視点をふまえて、身近な日常生活、特に私生活領域において展開される家族・個人の日常生活様態の特質を明らかにする。私生活領域における生活主体と生活資源との関係性を投影する日常生活様態の変遷について構造的に把握する。さらに、現代の日常生活の営みのあり方について考える。

<学習目標>
身近な日常生活の営み、特に自由裁量しうる私生活領域を中核とする生活の営みについて、具体的に、多面的・分析的に、時空間的に、理解する。
現代の身近な日常生活の営みのあり方について、主体的・分析的かつ統合的に考える。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
		I. 生活のイメージ	自らの生活に対するイメージを明らかにする。	①講義が中心となる ②コミュニケーション・ペーパーを活用する
	II. 生活研究の視点	アメリカ・ホーム・エコノミックスの生活研究の推移から生活研究の視点を明らかにする。		
	III. 生活様態の特質	生活の原初的な構造から生活活動を考察し、生活様態の特質を把握する。		
	IV. 生活様態の変容	生活様態の時空間的な推移について、日常生活の営みにみる生活主体と生活客体との関係性から考察する。		
	V. 日常生活の営みにあり方	現代の日常生活の営みのあり方を考える手がかりの一つとして、文化・伝統・因習を通してみる男女の関係性をVTRから考察する。 自らの生活のあり方を明らかにする。		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書				
参考書	必要に応じ教室にて紹介する。			
その他の資料	教室にて、資料を配布する。			

【評価方法】	【履修上の留意点】
①コミュニケーション・ペーパー 50%	①「日常生活の営みとは、何か」「生活者」とは、誰か」など等について具体的に考えながら、積極的に受講して下さい。 ②自らの生活体験を客観的に直視して、生活の営みの多様性について、時空間的に考えて下さい。
②期末試験 35%	
③出席 15%	

全科共通科目 教養